

NOHEJI High School 野辺地高等学校だより

「健闘！男子ハンドボール部」

校長 柴崎 剛吉



創立百周年の年に7度目の全国高校総体（インターハイ）出場を勝ち取った男子ハンドボール部の雄姿を間近で見るため、岡山県倉敷市の大会会場（倉敷体育館）へ行かせていただきました。

連日の酷暑の中、トレーニングや調整に取り組んできた選手たちを試合当日の会場で見たときの第一印象は、「ずいぶんと落ち着いているな」でした。選手たちは皆、全国大会の大舞台という雰囲気にのまれることなく、いつもどおりの精神状態で試合前の準備を淡々と行っているようでした。

ついに試合が始まりました。初戦の相手は大阪府代表の強豪校、桃山学院高校です。開始早々、先制点は野辺地高校！左サイドを起点とした見事なスカイプレイ（空中でのパス交換）からのシュートが決まりました。コートサイドの応援席には遠方から駆け付けた保護者の方や関係者に加え、女子の代表校である三本木高校の選手たちが、気持ちのこもった声援を送っています。試合が進むにつれて、相手の決定力の高さによって、徐々に点差が広がり始めました。しかし、守備時の反則による退場者が出て数的不利になった場面でも、必死に守ってシュートを防ぐなど、自分たちのハンドボールを最後まで貫く姿勢を見せます。

前半（30分ハーフ）終了時は11対20の9点ビハンドで、ハーフタイムに入りました。

ハーフタイム中も選手たちは前半を振り返り、後半の戦い方を模索していました。後半はベンチに入る顧問とコーチも含め、3年生にとってはこのチームで戦う最後の30分間になります。選手たちの目に、最後まで戦い抜くという強い意志を感じました。

後半が始まりました。後半はシュートが枠を外れたり、キーパーにセーブされる場面が多くなりました。しかし、選手たちは最後まであきらめずにシュートをし続けました。コートサイドの応援団も、一本のシュートが決まる喜びを全員が分かち合うような、そんな応援・声援に変わってきたようでした。試合終了のブザーが鳴りました。25対44。「インターハイで一勝」の夢は後輩たちに託されました。選手のほとんどが涙していました。私は先制点からずっと涙をこらえて声援を送っていましたが、ついに我慢できませんでした。

野辺地高校ハンドボール部の選手の皆さんお疲れ様でした。そして指導者、保護者並びに支援者の皆さんこれまでのご労苦に感謝するとともに、今後も変わらぬご支援をお願い申し上げ、岡山インターハイ出場報告とさせていただきます。

今の野高を今後、いかにつなげるかの思考を共に進めてまいりますので、引き続き皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

令和7年度 青森県立野辺地高等学校は創立100周年です



← HP
ご覧になります

学校創立100周年記念

式典及び祝賀会について

1. 期日 10月11日（土）

2. 会場 式典：第二体育館

祝賀会：野辺地町中央公民館

3. 出席者について

- ①案内状送付者（招待者）のみ出席できます。
(施設収容人数の関係上、案内状がない一般の方の出席はできません)
- ②当日は案内状をご持参願います。
(案内状を確認して受付いたします)
- ③お車への駐車証のご提示をお願いします。
(駐車証同封者は、誘導係に見えるようご提示願います)



つなぐ100年の歴史無限に広がる新たな未来